一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和

新出張所・公民館が完成　文化の発信基地に
インバウンドで街おこし　社会的実験をおこなう
一身田での春のイベント　クラシックカーが大集合・本山での声明公演も

念願の新出張所・公民館が完成

地域の利便性・文化発信基地としてスタート

真新しい出張所・公民館

かねてからの地域の要望であった新しい出張所・公民館が完成し、四月一日より利用が始まった。建物の概要としては、玄関を入るとすぐに出張所と公民館の共同の事務所があり、それぞれの窓口カウンターがある。廊下を挟んで多目的トイレ、男女トイレ、エレベーターがある。その奥には研修室と地域住民が集えるようテーブルが置かれた談話スペースが設けられている。2階へ上がると、百人ほどが一度に利用できる多目的室がある。この多目的室は3室に仕切ることができ、壁面鏡やスクリーンなどの設備が整っている。さらに屋上は、非常時に一五〇人ほどが避難できるようになっている。

こうした施設・設備を持つ一身田出張所・公民館が完成したわけだが、より充実した施設にするためには私たち地域住民がどのように利用し、どう関わっていくのか、この機会に考えていかなければならないと思う。

津市が過去に行った市民アンケートでは、「公民館の講座に参加したことがあるか」の問いに対して、約半数近くの方が「参加したことがなく、今後も参加しない」と答えている。また、「公民館に求めることは」という問いに対しては、約半数の方が「地域の活性化」と答えている。こうしたアンケート結果から見える住民の意識を参考にしながら、今まで築いてきた一身田公民館の実績や地域との連携を土台にして、多世代が利用できる施設、また一身田地区の情報発信基地など地域を先導していく施設にしていきたいと思う。地域とともに考え、語り合える施設、地域とともに行動する施設であることが地域の活性化にむけた役割を果たしていくことにつながるものと大いに期待したい。

最後に、単なる施設の建て替えだけだったというレベルで終わることのないよう、施設の建て替えが新たなスタートだったと将来、振り返った時に思えるよう、「津市のモデルとなる施設」をめざし、関係するすべての方々の知恵を出し合っていきたいと切に願う。（編集部）

1階・出張所・トイレ・水屋・ホールがある

多目的トイレも完備された

一身田出張所・公民館の完成に寄せて

津市長　前葉泰幸

このたび、新たな一身田出張所・公民館がオープンを迎えることができますのも、ひとえに一身田地域の皆様をはじめ、関係者の皆様方のご支援とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

一身田は、高田本山専修寺の寺内町として発展し、古くから自治都市として栄えた町です。人口も多く、地元行事への取組も非常に活発なこの地域の皆様から、築50年が経過し、老朽化が進む出張所・公民館に代わる新たな施設を整備してほしいとの強い思いをいただきました。

一身田出張所・公民館の整備を進めるにあたり、地域の皆様には優先させたい機能や必要な設備・間取りをご検討いただきました。

その結果、屋上への避難階段やエレベーター、様々な行事に対応できる広々とした多目的室を設置するなど、地域のニーズによって考えだされた、コンパクトでありながらも十分な機能を持つ使い勝手の良い施設が完成いたしました。

このように生まれ変わった出張所・公民館は、地域の皆様のたくさんの思いが詰まった施設であり今まで以上に一身田の人づくりとまちづくりの場として、積極的に活用していただけるものと期待しております。

出張所・公民館がより多くの方々に親しまれ、地域活動の拠点となるよう運営してまいりますので、皆様方のより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

津市長
前葉泰幸

新出張所・公民館

地域のステーションとして大いに利用しよう！

一身田地区自治会連合会長
望木幹雄

一年かけて取り壊される出張所・公民館

予てからの念願であった新公民館の竣工式が3月23日午後に行われ、4月1日から供用が開始となりました。

これまでの経過を振り返ってみますと、25年度から津市に対して口頭及び文書で新築を申し入れ、その後始まった地域懇談会でも重ねて要望してまいりました。その結果、高齢者や足腰の弱い方が使いやすくを目標にした施設を建設していただけることとなり、立地場所については現在地が適当と判断しました。市長、担当職員による実地検分、他地区公民館の見学等を重ねて、29～30年度に設計、施工、完工の運びとなりました。設計前の段階でスケール、設備等について市の担当者、一身田地区社協と自治会代表が出席をして打ち合わせを重ね、2階建てではありますが、エレベーターを設置し、他にも多目的トイレ等内容にも工夫を加えることができました。

1階には情報交換（おしゃべり）ができるスペースも確保されています。ぜひ、一般住民の方、公民館講座を利用される方全員で気軽に大切に使用していただければと思います。

最後に、地域懇談会の目的としている提議事項に対する積極的で、かつ素早い決断とお力添えをいただいた市長を始め、関係する部署の方々に厚く感謝申し上げます。

新しい施設を目の前にして

一身田公民館文化祭運営協議会　会長　中村征義

私たちが長年利用し親しんできた現在の公民館とも平成31年3月31日をもってお別れとなりました。私個人としましても、平成13年4月に館長として着任以来、館長としての5年間を含め17年間にわたり、この公民館に関わってきました。本当にたくさんの思い出が詰まった建物と言えます。

この間、地域の方々に愛される公民館であってほしいと願い、代々の館長さんや職員の方たちとともに知恵を出し合い、汗を流しながら携わってきました。おかげで講座生の皆さんや地域の皆さんもそれに十分に応えていただき、素晴らしい文化祭や行事を作り上げ、この地域にある誇れる公民館にすることができたと思っています。本当に多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。そして、何よりもうれしく思ったことは、公民館の職員の方たちと講座生や地域の方たちが気軽に声をかけ合えるような関係ができたことです。職員の方々がいつも私たちの話に頷きながら聞いてくれる雰囲気がとても好きでした。公民館に行くと癒されたのは私だけではないと思います。

こうした雰囲気や環境が新しい公民館にも引き継がれ、楽しい講座はもちろんのこと地域の皆さんの心の安らぎの場であってほしいと新しい建物を眺めながら願っています。

地域の絆を！

一身田尚拝前在住　荒木史江

私自身、一身田公民館では、講座案内の冊子で様々な活動が行われていること、そして津市の指定避難所であるという認識はありました。毎年講座案内には目をとおしており、興味のある講座はあるものの、仕事や育児の合間の限られた時間では都合が合わず、結局参加には至りませんでした。そういう中で「特定の人」だけが利用するというイメージとなっていました。

しかし、高齢化・核家族化の傾向が進み、一人暮らしの高齢者の増加や子供達をとりまく問題等多くの地域的課題に直面している今、地域の公民館に期待すべき役割はあると思います。人々が求める活動が積極的に展開されると共に、地域のコミュニティーの場として、誰もがちょっと立ち寄ってみたくなる魅力ある存在であること、そして建物に足を踏み入れた時、人の温かさが感じられ、地域の絆をつくる開かれた空間であることが、新しい施設に求められているのではないでしょうか。

皆さんの身近な施設を施設をめざして

一身田出張所をご活用ください

一身田出張所長

出張所は、市民の皆様に住民票や戸籍などの窓口サービスを提供させていただくとともに、市民相談や要望の受付、自治会との連絡調整などの業務も行っています。内容によっては、出張所でお受けできない業務もありますが、その場合は、本庁担当課などに問い合わせを行うなど、スムーズにお手続きを行っていただけるよう対応してまいりますので、お気軽にお越しください。

新しい施設では、出張所と公民館の業務を同じ事務室で行います。出張所と公民館をご利用いただく方に、親切で解りやすいサービスを提供させていただくとともに、自治会などの地域でご活動いただいている団体の皆様とのコミュニケーションも大切にし、地域の皆様の身近な施設となるよう運営してまいります。地域の皆様のご利用を心からお待ちしております。

仏教音楽の魅力を伝える

声明　凱旋公演5月21日

高田本山　御影堂で

声明（しょうみょう）とは、経文や偈文に装飾的な旋律・抑揚を付けて唱える仏教声楽曲のことであり、一般的に親しまれている「文類偈」や「和讃」もその一つです。

昨年、国立劇場での第五十五回声明公演「宗祖親鸞聖人への讃歌」へ出演し、本山専修寺の声明を広く知っていただく機会がありました。その伝統の響きを今度は本山のお膝元である一身田の皆様に是非見て頂きたく5月21日親鸞聖人降誕会にあわせて、高田本山の御影堂を会場に「声明凱旋公演」を開催します。

開演18時。入場無料。事前応募者を優先的にご案内します。応募方法は高田本山までお越しいただくか、往復はがきに①郵便番号②住所③氏名④連絡先⑤年齢⑥人数を明記して「津市一身田町2819高田本山専修寺　声明公演事務局」までお送り下さい。

また、同日には、普段非公開の茶室『安楽庵』において一年に一度だけの茶会を行います。ご希望の方は当日呈茶チケットをお求め下さい。

問合せ先高田本山専修寺☎059(232)4171

5月21日は親鸞聖人の誕生日、境内ではいろいろな行事が行われる。
安楽庵（茶室）での茶会はこの日だけ行われる。

退任しました

自治会長の任を終えて

水谷千春

平成11年1月に大古曽区の自治会長をお引き受けしてちょうど二十年が経過したのを機に自治会長の職を辞することとなりました。思い返せば、あっという間に時間が経過したように感じます。

自治会連合会長も森本音次さん、森錦一さん、真弓浩さん、そして現在の望木幹雄さんと四名の会長さんにお世話になりました。中でも一番印象に残っているのは、平成20年5月より自治会連合会長になられた真弓会長さんと事務局長を引き受けた私が二人三脚で次のような新しい事業を展開したことです。

①三〇〇鉢のあじさいの花を町内に配布
②フラワー研修会の実施
③元気凧揚げ大会の実施
④自治会だよりを年4回発行

特に、地区の団結を図るために考えた「元気凧揚げ大会」は今年で11回目となり、年々力作が見られるようになりました。中学生も大凧作りに挑戦してくれ、地域で製作する二つの大凧と合わせて一度に三枚の大凧が一身田の空に揚がるというまさに壮観な光景が見られました。

各行事ともまだまだ地域の方への周知が不十分なところもありますが、多くの地域の方が参加してくださって盛り上げていただき、地域の団結と活性化が図られていくことを願っています。

2月17日　身障者センターグラウンドで行われた凧揚げ大会には250名の参加がありました

インバウンドプロジェクト大成功！

一身田の魅力再発見「街並み」や「伊勢木綿」

海外観光客（インバウンド）の需要が高まる中、「一身田も海外にアピールできるはず！」と、インバウンドプロジェクトとして、『一身田の良さを生かした外国人向けツアー』を企画し、2019年2月～3月に実施した。参加をした30人ほぼ全員が、「とても満足した」と答えるなど大好評であった。このプロジェクトを約一カ月かけて実施した二人の大学生とその概要を紹介する。

大学生の二人とは、立教大一年の金子将太郎さんと立命館大二年の中尾充希さんで、今回初めて一身田にやってきた二人である。二人がまず取り組んだのは街歩きをしながら名所や旧跡、歴史を調べることであった。そして地域住民が集まる「坊主バー」に参加をし、様々な情報を収集しながら彼らなりに学びを深めていった。その結果、京都などの観光地と違い、一身田には人々の暮らしと日本らしい風景が共存しているところに価値を見出した。そして、それを生かしたツアーを5種類企画し英語でガイドした。ツアーは、「専修寺ツアー」「伊勢木綿ツアー」「下津醤油ツアー」「書道体験」「ミニチュア着物づくり体験」の5種類で、三重大の留学生や英会話教室の外国人教師なども参加をし大変好評であった。

プロジェクトを終えた金子さんは、「成功は地域の方の協力のおかげであり、自分も成長できた」と語った。中尾さんも「一身田には魅力的で歴史ある作り手がたくさんいた。お互いが連携していけばまだまだ可能性は広がる」と話す。

彼らの未来と一身田の未来が楽しみである。

伊勢もめんを着て高田本山山門前で記念撮影
「静かがいい。静かでいい」と参加者の感想。

今年も来ます。クラシックカー

4月19日(金)　午後1時頃本山・寺内町周辺

みんなで応援しよう！　（写真：昨年のラ・フェスタ）

一身田公民館のさらなる発展を願って

3年前、「一身田公民館ってどこ？」と、スーパーゼにやさんの駐車場で迷っていたのがついこの間のように思われます。光陰矢の如しということわざのように、あっという間に過ぎ去った楽しい3年間でした。

今、この3年間を振り返ると様々な場面が思い出されます。講座生の皆さんとの何気ない会話や講座後に見ることができた皆さんの満足感に満ちた笑顔、そして地域の方々との懇談の中で教えていただいた地域の話題、また地域の行事の準備や運営に共に携わった際に感じた公民館への期待感など、様々な場面で公民館に対する皆さんの想いを感じることができた充実した毎日であったと思います。地域の方々に支えられ、すばらしい文化祭も開催することができました。文化祭で見た見事な作品や発表は私たちの誇りでした。このような講座生の皆さんや地域の皆さんとの触れ合いを通して、この地域に公民館があってよかったと言っていただけるような公民館でありたいという強い思いを持ち、館長として力足らずではありましたが、3年間務めてきたように思います。

四月からは出張所と公民館が一つの事務所に存在する新しい施設となります。お互いのメリットを共有しながら新しい施設がより一層地域の皆さんに愛され、頼られ、支えられながら皆さんの期待に応えられる施設であり続けられるよう願い、館長の任を終えたいと思います。公民館に関わっていただいた多くの皆様の温かいご支援に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

館長　米川　武宏

名古屋学院大学

杉浦ゼミ生も提言

3月6日・7日、名古屋学院大学の杉浦ゼミ生14名が来町し、「商店街改善策」を提言した。（昨年に引き続き2回目）

内容は「若者をターゲットにした街づくり」で、高田学苑と提携してスポーツ関係者の宿泊者を増やす。空き家を利用して学生が託児所を兼ね備えた寺カフェを造る。インスタ映えする方法として、ライトアップや「かわいい、カラフル、ここだけ、古風」をキーワードにしてモノづくりをするなどが発表された。